日産自動車株式会社横浜工場見学　2017 年 3 月 14 日

今回の工場見学は、東京工業高等専門学校の東京高専技術懇談会主催、電子工学科　教授・工学博士　加藤　格先生の呼びかけで実現できた。JR 新子安駅から歩いて 15 分、バスの便は少なく、タクシーも駅前にはいないので、歩いた。

83 年前の建物を一部残しているゲストホールがあり、歴代のエンジン、日産の最初の車ダットサンロードスタ 15 型、サニー、電気自動車（リーフ）、セレナが展示されている。

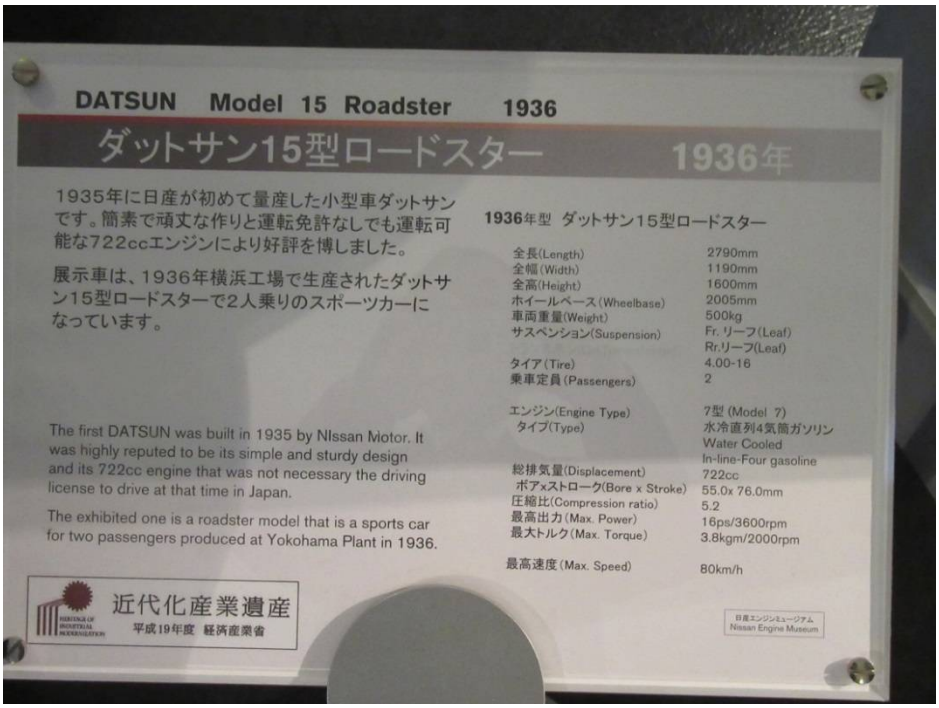
横浜工場では、5 種類のエンジンを製造（内 1 つはセル生産方式）。　車ができるまで（横浜工場でエンジンを造り栃木工場で残りの工程は全て行う。）エンジンの部品数：約 450（内、横浜工場で製造している部品は 4 つ 5 つ、残りは 100 社程の下請けから供給させる。）　。ここが工場の入り口。

広い敷地に（約 20m/100m）機械が詰められその割には従業員数が少ない。第一工程では、手作業だと完成まで 4 時間掛かるところ、機械を入れると 2 時間短縮される。1 日（24 時間）で 500 機程造る。天井から電光掲示板が吊るされて、生産目標数/日と現在の生産数が掲示。8 時～17 時　20 時～5 時の 2 部生産体制なので、目標数に達しない場合は、空いた 3 時間で挽回する。

製造ラインの最後は手作業。チューブを差し込む、コネクターをはめる等の工程等は手作業。しかし、製造ラインから回ってくるエンジンは受発注の為、バラバラです。ここでは、取り付ける部品がセットで回ってくる為、作業員が棚から部品を出す事はない。時間短縮で、次の工程へ 1 分以内に回す。

改善は、安全に（安全）・正確に（品質）・早く（納期）・より安く（コスト）が鍵という。より良い効率を考え、紙を 1 枚だけ取る装置、ネジを決められた数量だけ取る装置部品の混入を避けるため、蓋が交互にしか空かない装置等を見学した。

日産自動車が造った最初の車は DAT SUN(ダット サン)。日産自動車の源流であるダット自動車の支援者、田・青山・竹内の頭文字を取り DAT 自動車が造られた。日産自動車になり、DAT より、更に小型化した自動車を造り、DAT の息子と DAT SON と名付けた。カタログに、DAT SON(ダット ソン)としたところ、ソンが損と縁起が悪いとの事で、DAT SUN(ダット サン)とした。1930 年代、この DAT SUN は免許が無くても乗れる自動車でしたが、　価格は当時の 1000 円（現在の 500 万円程）だったそうです。



長年蓄積した技術と規模の大きさ、自動機の多さ、これが世界の日産でした。
以上の文面は、共に見学会に行った清水さんからの提供です。

以上